

## 日14-43 (ショートコメント)

### 「チーム・バチスタFINAL ケルベロスの肖像」

\*\*\*

2014 (平成26)年3月30日鑑賞<TOHO  
シネマズ梅田鑑賞>

監督：星野和成

脚本：後藤法子

原作：海堂尊『ケルベロスの肖像』（宝島社刊）

田口公平（東城大学医学部付属病院・特別愁訴外来担当医）／伊藤淳史

白鳥圭輔（厚生労働省大臣官房秘書課付技官）／仲村トオル

別宮葉子（医療ジャーナリスト）／桐谷美玲

滝沢秀樹（東城大学医学部付属病院・救命救急医）／松坂桃李

速水晃一（東城大学医学部付属病院・救命救急センター部長）／西島秀俊

桜宮すみれ（地方病院「碧翠院」の婦人科医）／栗山千明

東堂文昭（マサチューセッツ医科大学上席教授）／生瀬勝久

和泉遥（東城大学医学部付属病院・救命救急医）／加藤あい

長谷川崇（東城大学医学部付属病院・救命救急医）／戸次重幸

佐藤伸一（東城大学医学部付属病院・救命救急センター副部長）／木下隆行（TKO）

三船大介（東城大学医学部付属病院・事務長）／利重剛

藤原真琴（東城大学医学部付属病院・特別愁訴外来専任看護師）／名取裕子

2014年・日本映画・128分

配給／東宝

◆現役医師・海堂尊（たける）が書いた小説『チーム・バチスタの栄光』（06年2月発売）を映画化した『チーム・バチスタの栄光』（08年）は結構面白く、私は2008年1月9日に和歌山県立医科大学保健看護学部で行った「映画から学ぶ医療従事者の生き方」と題する特別講義でこの「映画ネタ」を活用した（『シネマルーム18』129頁参照）。また、大阪日日新聞08年2月15日付『弁護士坂和章平のLAW DE SHOW』でも、「医療を志す者はぜひ見るべし」とのタイトルでこの映画を推薦した。

バチスタ手術とは「拡張型心筋症に対する非常に難易度の高い手術で、創始者の名前を取ってバチスタ手術と呼ばれている。肥大した心臓を切り取って小さくし、心臓の収縮機能を回復させる手術」だから、そもそも「バチスタ」などという言葉が定着するはずはないのだが、原作が第4回「このミステリーがすごい！」大賞を受賞したこと、この映画が大ヒットしたことを受けて、出版でもテレビでも「バチスタ」は次々とシリーズ化された。しかして、本作は『バチスタ』シリーズのファイナルだが、「ケルベロスの肖像」とは一体ナニ？本作は『永遠の0』（13年）（『シネマルーム31』132頁参照）と同じように火葬場のシーンから始まるが、お骨を拾っているシーンを観ていると、骨の間には黒焦げてはいるものの明らかかなペアン（鉗子）が……。体内にこんなものが残っていたということは、明らかに医療過誤……？

◆『チーム・バチスタの栄光』では竹内結子扮する田口公子と、阿部寛扮する白鳥圭輔が面白い凸凹コンビだった。しかし、本作にみる凸凹コンビは伊藤淳史扮する田口公平と、中村トオル扮する白鳥圭輔となっている。横溝正史の探偵小説の主役として登場する金田一耕助や、京極夏彦の『姑獲鳥の夏』に登場する中禅寺秋彦は「一匹狼」としてのキャラが特徴だが、シャーロック・ホームズシリーズにおけるシャーロック・ホームズとジョン・H・ワトソンは2人の「コンビ」が売り。そして、海堂尊の『バチスタ』シリーズは、東城大学医学部付属病院・特別愁訴外来担当医の田口公平と厚生労働省大臣官房秘書課付技官の白鳥圭輔のコンビが売りだ。

パンフレットにある海堂尊の言葉によると、この2人は「物語を作る上に必要な人物が田口で、その物語が要請した人物が白鳥」らしい。身長差でもかなりの凸凹コンビだが、性格でも、物事への対処法でも2人はまるで正反対。さあ、この凸凹コンビ『「チーム・バチスタFINAL」』でいかなる活躍を？

◆『チーム・バチスタの栄光』では「バチスタ手術」なるものに衝撃を受けたが、本作ではA i（オートプシー・イメージング）という「死亡時画像診断」がポイントだ。CTやMRIなどで撮影した死後の画像を診断することで死因究明を行うことができるらしい。

これは国と自治体、東城大学医学部付属病院が取り組む死因究明の一大改革だが、その目玉として導入されるのが、顕微鏡レベルの解像度を誇る9テスラの巨大MRI“リヴァイアサン”。その能力は、A iセンター始動の日のシンポジウムにおける、「あっと驚く展開」の中で明らかにされるから、それに注目したいが、医学がここまで進歩していることにビックリ！

◆私は弁護士として、社会的に問題になった各種薬害訴訟や厚生労働省による薬事法に基づく新薬の承認問題について大いに問題意識を持っている。したがって、本作のストーリーを牽引するヒロインとして登場する別宮葉子（桐谷美玲）の問題意識がよくわかる。また、本作の直前に放送されていたTVドラマ『チーム・バチスタ4 螺鈿迷宮』で登場していたという、桜宮すみれ（栗山千明）、南雲忠義（中村育二）らがA iセンターオープンのシンポジウムでみせるパフォーマンス（問題提起）も、その深刻さがよくわかる。『バチスタ』シリーズは、患者の命を救うことを本来の使命とする医師が、逆に「患者を殺す」というところがミステリーのミソだが、さて本作で大規模な「密室集団不審死事件」を実行する人物は一体ダレ？

前述した、2つの社会問題を背景として描かれる、そんなミステリー色豊かな『バチスタ』シリーズも、本作で終わりとなると少し寂しい気もするが……。

2014

4 (平成26)年3月31日記